

水俣病がもたらしたもの



埋立地に建立された「水俣病慰霊の碑」

水俣病とは

水俣病とは、日本における四大公害の一つで、工場から排出されたメチル水銀に汚染された魚介類を人が食べたことにより起こった疾患です。メチル水銀が体内に入ると、脳や神経を侵し、手足のしびれ、ふるえ、脱力、耳鳴り、言葉が出にくくなる、動きがぎこちなくなるなどの症状が起こります。遺伝したり、感染したりする疾患ではありませんが、母親の胎盤を通して、メチル水銀が胎児へ移行し、生まれた子どもに特異な症状が現れ、亡くなった例もありました。

奪われた命、くらし、夢、絆…そして今

水俣病の原因がまだはっきりしなかったころ、病気が伝染すると誤解され、患者の家を避けたり、就職や結婚を断られたりするなどの差別が起きました。水俣病が原因で亡くなっても、親戚すら葬儀に参列せず、家族のみで弔うこともありました。水俣に住んでいたというだけでさまざまな偏見にさらされ、水俣出身ということのを隠して生活している人もいました。また、原因となった企業で働く人や家族への中傷、患者が受け取る補償金へのねたみなど、地域住民どうしの絆も損なわれました。今日では、埋め立てによる整備が進み、魚介類も安全性が確認され、昔の風光明媚な光景を取り戻していますが、今も健康被害で苦しんでいる患者がいるということや差別の問題など、大きな課題を残しています。

「水銀に関する水俣条約」が 昨年の8月に発効されました

「水俣」が世界の国々が守るルールの名前になりました。現在も、世界では金を採る作業や工業などで水銀が使われています。この条約は、水俣病のような健康被害を二度と繰り返さないために、水銀の採掘や使用、廃棄の全過程で規制を設け、環境汚染や健康被害を国際的に管理するルールを定めたものです。

水俣の教訓が世界を動かしたのです！

市内小学校では5年生で 水俣病を学習します



現地で話を聞く児童

水俣に行って見学したり、当事者の話を聞いたりして、環境問題としてだけでなく、人権の視点から水俣病の問題を学習している学校もあります。昨年度、水俣病について学習した児童の感想です。



ぼくは水俣はいいところだと思いました。海はとてもきれいだし、クラゲもいました。でも、水俣病で苦しんだ人たちの話をたくさん聞きました。つらい気持ちだったと思います。ぼくは差別を絶対にしたくないと思いました。



水俣病が公式に確認されてから60年余り…。今も胸を張って「水俣出身です」とは言えない現状があります。これは、水俣病に対する無理解や誤った認識が、偏見や差別につながっているからではないでしょうか。

水俣病の問題について、正しく知るとともに「人間らしく生きる」「豊かに生きる」とはどういうことが、そのためには、お互いの人権を大切にすることがいかに大事かということを考えてみましょう。